

情報連絡員報告総括表（令和2年9月分）

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名（100%）

業界の景気動向（前年同月比）

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 <small>（臨時・パートを含む）</small>			業界景況		
	増 加	不 変	減 少	増 加	不 変	減 少	上 昇	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	好 転	不 変	悪 化	上 昇	不 変	悪 化	増 加	不 変	減 少	好 転	不 変	悪 化
製 造 業	食 料 品		1	3	2	2		4			4			4		1	3		1	3		4					4
	織 維 工 業			3	1		2		3		2	1		1	2			3		1	2		2	1			3
	木 材 ・ 木 製 品			1		1		1			1			1		1					1		1				1
	紙 ・ 紙 加 工 品			2		2		1	1		1	1			2	1	1				2		2				2
	印 刷			1		1		1			1			1				1			1		1				1
	化 学 ・ ゴ ム																										
	窯 業 ・ 土 石 製 品		1	2	1	2			3		2	1		2	1		3			2	1		3			1	2
	鉄 鋼 ・ 金 属			1			1		1		1				1			1			1		1				1
	一 般 機 器		1	2	1	2			3		2	1			3		1	2		1	2		2	1			3
	電 気 機 器			1		1				1					1			1			1		1				1
	輸 送 機 器			1			1		1		1				1						1			1			1
	そ の 他																										
小 計		3	17	5	11	4		18	2		14	6		3	17	1	7	12		5	15		17	3		1	19
非 製 造 業	卸 売 業			2		1	1		2		2			2		2						2					2
	小 売 業	2	4		4	2		6		3	3		2	4		4	2					6			2	4	
	商 店 街			1			1		1		1			1			1						1			1	
	サ ー ビ ス 業		2	3			1	4		1	4			3	2		3	2					4	1		2	3
	建 設 業	1	2	1				4			3	1		3	1		3	1					4			3	1
	運 輸 業	1						1			1		1				1						1		1		
	そ の 他			1					1		1				1		1						1				1
小 計	2	6	12		5	4	1	18	1	1	14	5	1	8	11		14	6				18	2		1	7	12
合 計	2	9	29	5	16	8	1	36	3	1	28	11	1	11	28	1	21	18		5	15		35	5	1	8	31

最近の主要指標の前年同月比D I の推移

(令和元年9月～令和2年9月)

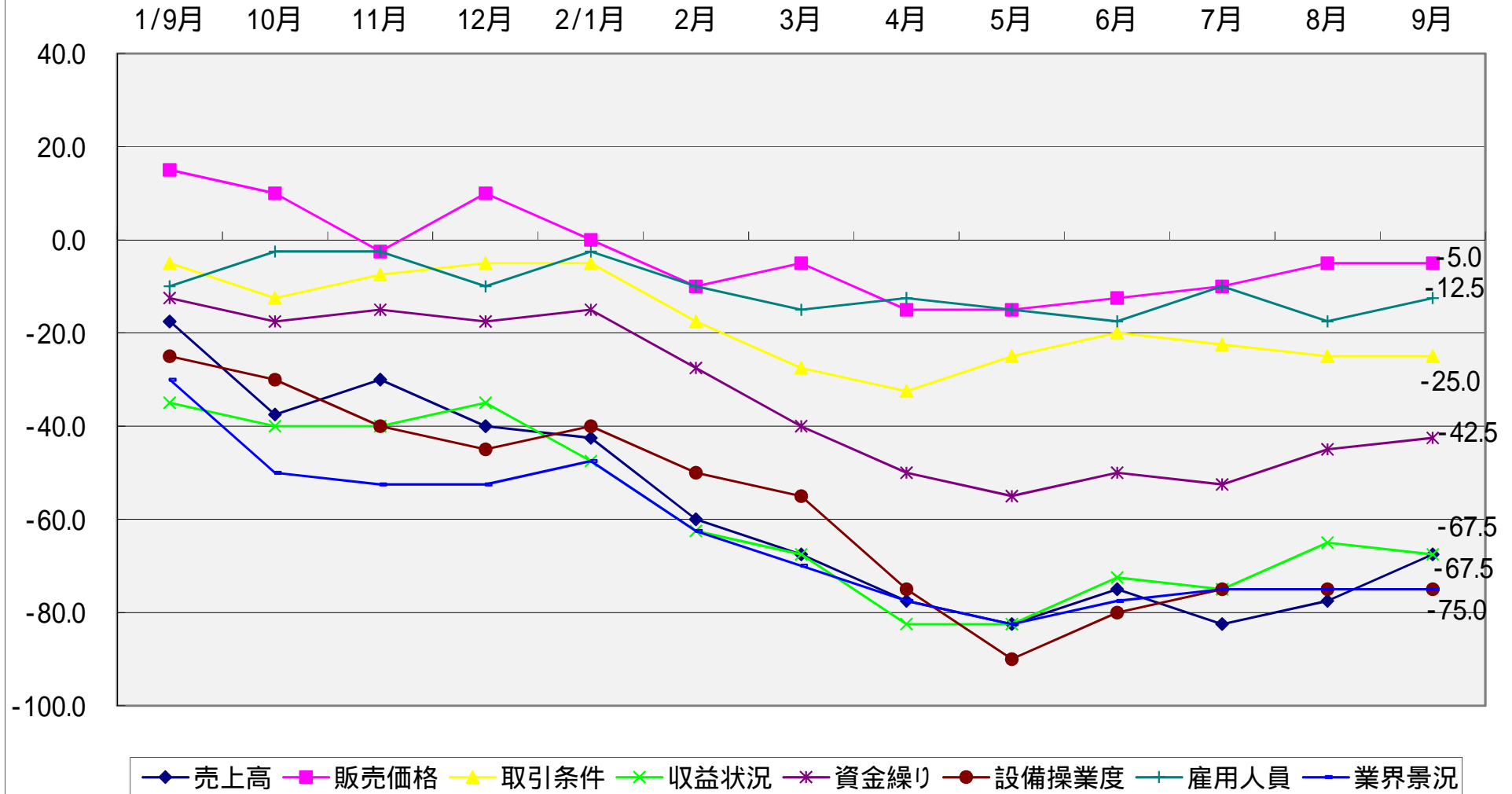
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	1/9月	10月	11月	12月	2/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	増減
売上高	-17.5	-37.5	-30.0	-40.0	-42.5	-60.0	-67.5	-77.5	-82.5	-75.0	-82.5	-77.5	-67.5	10.0
販売価格	15.0	10.0	-2.5	10.0	0.0	-10.0	-5.0	-15.0	-15.0	-12.5	-10.0	-5.0	-5.0	0.0
取引条件	-5.0	-12.5	-7.5	-5.0	-5.0	-17.5	-27.5	-32.5	-25.0	-20.0	-22.5	-25.0	-25.0	0.0
収益状況	-35.0	-40.0	-40.0	-35.0	-47.5	-62.5	-67.5	-82.5	-82.5	-72.5	-75.0	-65.0	-67.5	-2.5
資金繰り	-12.5	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-27.5	-40.0	-50.0	-55.0	-50.0	-52.5	-45.0	-42.5	2.5
設備操業度	-25.0	-30.0	-40.0	-45.0	-40.0	-50.0	-55.0	-75.0	-90.0	-80.0	-75.0	-75.0	-75.0	0.0
雇用人員	-10.0	-2.5	-2.5	-10.0	-2.5	-10.0	-15.0	-12.5	-15.0	-17.5	-10.0	-17.5	-12.5	5.0
業界景況	-30.0	-50.0	-52.5	-52.5	-47.5	-62.5	-70.0	-77.5	-82.5	-77.5	-75.0	-75.0	-75.0	0.0

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等 (景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
食料品	醤油味噌	なかなか回復せず、低迷のままである。小学校へのしょうゆ出前授業は、今年度は県内で2校のみの実施であとは実施しない。理事会を9ヶ月ぶりに実施した。しょうゆにおける今までのJASは品質についてのJASであったが、今回は新JASで製法について追加するべく協議している。
	豆腐	新型コロナウイルスの影響で外食産業、観光業への食材(豆腐油揚げ)の納品は依然として回復していない。
	製麺	10月よりGo Toキャンペーンが始まり、明るい兆しが見えてきた。先日伊勢神宮にサン参詣して、少しずつだがお客様が増えてきた。修学旅行が三重県県内で行われる事となり、伊勢、志摩、鳥羽に活気が戻る事を祈る。
繊維工業	組紐	9月中頃より少しではあるが、動きが出たように感じられるが、先行きの不安は残っている。
木材・木製品	木材	新型コロナウイルスの影響により需要の減少で依然として先が見通せない状況にある。
紙・紙加工品	紙器段ボール	会員企業により受注量はまだら模様である。相対的には減少気味である。これから秋冬用の商品が伸びる時期であるが、生産量の予想は難しい。
	古紙	9月期の古紙仕入量は：段ボール・約95±5%位、新聞、チラシ・約85±7%位、雑誌・雑がみ、その他を合わせて約93±7%位の模様である。巣ごもり需要で家庭で過ごす時間が多くなり、宅配や地方や住宅に近いスーパーやコンビニ等の食品消費が増えたか？コンビニは都市部の利用が激減で合わせた業績は良くないとの事だが段ボール古紙の発生は全業種合わせて▲2%～▲8%ぐらいである。新聞・チラシも▲8%～▲20%ほどマイナスの様で雑誌・雑がみは0%～▲10%の推移の様である。コロナ感染症により更に紙離れが2～3年加速した感です。製紙会社様の操業も前年マイナスだそうである。Go Toトラベルや地域振興券・Go Toイートによる景気刺激策は効果がありそうだが関東圏の感染者数が減らないので大幅で全国的な感染が起きるようにも見える。古紙の持去りは無くならず、ゴミの不法投棄もイタチごっこで解決に至らずである。
印刷	印刷	2021年版三重県民手帳は、コロナ禍で会議、取材等が困難なうえに本業の業績が深刻なこともあり当初は、応募を断念したが再度の依頼があり熟慮の末、製作発行を決断した。限られたメンバーと短い製作期間だったが、無事完成の運びとなった。情報が解禁となり、今後は10月7日(水)の発売に向けて広報活動をおこなう。
窯業・土石製品	伊賀焼	新型コロナの影響で続いている状況の中、客足はまだ前年に比べて少ないものの、少しずつではあるが売上が戻りつつある。陶芸教室については特に小中学校からの団体の申し込みが多い。
鉄鋼・金属	鍍金	当業界の生産高は8月と比べ自動車業界の国内生産が若干上向きそれに伴いやや回復傾向にあった。ただ半導体関連は在庫調整からみて前月よりやや落ち込み傾向にあり、10月以降もこの状況が続くと思われる。その他の製品に関しては伸び悩み気味である。
一般機器	四日市	新型コロナウイルス感染症と経済活動の両立を目指して日本国は厳しい環境に立たされている。中小企業の改変を打ち出した新政府の方針がわれわれ組合にとってプラスとなる材料は見いだせない。不安な先行きに対応するために一層の努力が求められる。
	津市	少しずつ受注は戻りつつあるが、コロナ前よりは戻っていない。(10%～20%減)会社全体の休業はないが部分休業している状態である。大企業は売上が戻ってきていると言われているが、中小企業まで受注は来ず、まだまだ先行きが見通せない状態が続くと思われる。
	伊勢	緊急事態宣言が出ていた時期と比べると良くなってきた。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大は続いていて、回復ペースに乗らない。この水準が続くと思われる。
電気機器	鳥羽	上期後半には少々上向きになると期待したが、受注量は20%～30%減である。非常に厳しい現状である。
輸送機器	鈴鹿	某自動車メーカーでは来年6月をもって軽トラック事業から撤退するため、最後の作り込みで9月以降の軽トラック生産台数は従来の2倍あり、その部品の製造設備は土曜日も稼働する必要がある。その一方で、暇なメーカーの部品を製造している設備は全く止まったままである。設備によって稼働の繁閑の差が大きく、人員配置のバランスに苦慮している。
	青果	野菜前半：北海道産の人参、玉ねぎ、じゃがいもは安値が続く。かぼちゃは大玉中心で、味も良い。白菜は長野産が増えお値打ちである。葉菜類は例年に比べると高値である。レタス、白菜は安い。野菜後半：トマト、きゅうり、なすは入荷が不安定で高値傾向である。サトイモは入荷が順調で値下がりしてきた。キャベツも価格は安定している。果物前半：シャインマスカットは山梨産の露地物が増え、値下がりがしている。長野産の巨峰、ピオーネの露地物が増え、お値打ちである。高値続いたりんご、長野産、青森産の入荷が増え、値下がりしてきた。県内産みかんの入荷が増え、小玉傾向だが甘味はあり、価格を下げたが例年より高めである。長野産の梨は南水、豊水も全体的に高値である。奈良産の刀根柿がピークである。

情報連絡一覧票

集計上の分類業種	具体的な業種 (産業分類細分類相当)	組合等及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
	自転車	厳しい8月を過ぎ、9月に入り去年と比べても、若干回復してきたような気がする。当業界の一部にとって、ちょっとした朗報は最近殆どの公安委員会がタンDEM自転車(2人乗車で2人漕ぎ)の一般公道走行を認めるようになった。新しい取扱いアイテムが増えたという事で喜ばしい。しかし、タンDEMは実用性に欠く面があり、当組合の構成員の多くが実用車を中心に扱っているので、期待できるかは定かではない。
	電器	9月は季節の変わり目で中心商品がなく苦戦傾向であった。長引くコロナの影響も考えられるが、電気店への来店は少ない状況が続いている。特に前年は消費税率アップ前の駆け込み需要があり単純に比較することは難しいが前年を大きく下回った。新型コロナウイルスの感染拡大の影響は大きく、4月からの累計では2桁に近い大幅ダウンである。在庫面でも季節の変わり目と併せ商品の切り替えが始まるが品薄・品切れが顕著になって来た。また、高齢化のため廃業も続いている。
	石油	2019年度末の登録SS数29,637か所と同年度のガソリン内需4911万キロリから弾き出される1SS平均の月間ガソリン販売量は、前年度に比べ2.1キロリ減の138.1キロリと、2年連続で前年度を下回っている。SS数の数から見ても、94年度から19年度までに50.9%減と、四半世紀で実に40,805か所ものSSが消失するなど、年々SSの廃業・撤退が進んでいる。都市部ではSSの空洞化、地方部ではSSの過疎地問題が浮上するなどエネルギー供給の「最後の砦」であるSSサプライチェーンの維持が危機的状況に陥っている。さらに今年は新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛による需要不振で販売量が落ち込んでいる。何とか、ガソリン内需を前年度並みに保って行くためにも政府の施策に期待する。
	スポーツ	コロナ禍の中ではあるが、学校のクラブ活動も動いてきたし、大会もいろいろと考えながら開催してくれているので、ユニフォーム等の受注はかなり戻ってきたようである。ただ、店頭販売はまだまだである。給付金をかなりの組合員がそれぞれの力で申請し、受給しているようである。
商店街	熊野市	この4連休はコロナ渦以降一番の人出となったようで、他府県ナンバーも多く見受けられた。現在までまだこの地方については、感染者が発生していない状況が続いているため、店舗によっては他府県からの来店を拒む店舗もまだまだ多く、売り上げ自体は厳しい状況下にある。
サービス業	旅館	長い間、自粛してステイホームから解放されて旅行に出たいと思う方々の背中をポンと押したのが、Go Toトラベルキャンペーンで、8月、9月と多くの利用者があり、5月、6月頃とは比べものにならない位、地域が明るくなってきた。しかし、お客様は高料金の施設から選んでいく傾向があり、そうした施設は前年同期を上回る業績のようである。このようにGo Toトラベルキャンペーン効果も現在は限定的であり、今後は広く効果が出る事を期待する。
	測量	仕事柄、新型コロナウイルス感染の可能性は少なく作業に影響なし。公共事業の受注は各社例年並みである。民間に関しては減少のみである。
	警備	9月度は台風等で雨が多く、受注減少である。例年のイベントがコロナの為に中止で、受注減少となった。
建設業	総合工事業	9月の国発注建設工事は昨年度の約2倍の発注があり、昨年度の1.3倍の上半期受注量があった。県発注工事の9月の発注量は、昨年度並みの発注量が確保されたが、上半期受注量は、昨年度の約8割となっている。県予算における公共工事は、前年度を超える規模と聞いているので、下半期には昨年度を超える発注が行われるものと期待している。市町発注等も含めた全体の上半期受注は、昨年度の約1.1倍であり、堅調に推移している。
	内装工事業	前月同様、対前年同月比で大幅なマイナスとなった。コロナの影響で建設業界も工事受注の減少等、非常に厳しい状況である。
	水道工事業 (亀山)	今期で一社脱退が出た。個人経営であり、高齢で跡取りもいないため、廃業するようである。
運輸業	トラック	燃料価格は横ばいで推移している。国内景気は新型コロナウイルス感染拡大で停滞していた経済活動が国内外で再開し、自動車関連等の製造業に回復傾向に転じたことから運輸業においても取扱貨物量が増加に転じた。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	伊勢うどんの試食会が当初は8月に開催予定であったが、10月～11月には再開を考えている。また、分かり次第連絡する。
一般機器	四日市	今のところ期待するのは給付金の増額くらいしかない。
サービス業	旅館	Go Toトラベルキャンペーン効果が広くゆきわたるよう支援策をお願いしたい。(セーフティーネット、固定資産税の土地部分を含めた減免)